

朝日町 議会だより

第62号

平成21年8月1日



第2回 議会 定例会

	ページ
21年度補正予算、条例制定議案等	2～3
代表質問 2名	4～6
一般質問 3名	7～9
議会トピック	10
常任委員長報告	11
議会日誌 4月～6月	12

PHOTO

朝日岳山開き登山会

発行編集 富山県朝日町議会だより編集委員会

21年度専決補正予算の主なもの		千円単位切捨て
一般会計（補正1号）		補正総額 1億4,500万円
コミュニティ事業		500万円
すこやか応援券プレミアム事業		2,000万円
商工業振興事業		12,000万円
一般会計（補正2号）		補正総額 1億7,100万円
し尿処理施設整備費		22,800万円
下水道事業		1,239万円
予備費		4,461万円
特別会計		
下水道会計		22,800万円
21年度補正予算の主なもの		千円単位切捨て
一般会計（補正3号）		補正総額 1,339万円
新エネルギー導入促進事業		606万円
富山型デイサービス施設支援事業		440万円
中学校改築プロポーザル参加料		100万円
特別会計		
老人保健医療事業会計		91万円
一般会計（補正4号）		補正総額 2億86万円
地域活性化・経済危機対策事業		1億5,196万円
緊急雇用創出事業		826万円
小学校ICT環境整備事業		3,439万円
中学校ICT環境整備事業		623万円
特別会計		
下水道会計		1,100万円
20年度専決補正予算の主なもの		千円単位切捨て
一般会計（補正6号）		補正総額 8,551万円
障害者福祉費		1,343万円
要援護高齢者対策費		1,440万円
新川地域介護保険組合負担金		959万円
国民健康保険特別会計繰出金		1,673万円
重度心身障害者等医療費		1,704万円
除雪対策費		1,982万円
教育施設管理運営費（生涯学習館ほか）		1,154万円
財政調整基金積立金		31,749万円
減債基金積立金		22,817万円
土地開発基金積立金		10,023万円
予備費		34,423万円
特別会計		
国民健康保険会計		19,289万円
老人保健医療事業会計		935万円
後期高齢者医療事業会計		3,869万円
簡易水道会計		219万円
下水道会計		884万円

平成21年度補正予算・平成20年度
 専決補正予算・条例制定・議員提出
 議案など24議案を可決・承認

21年第2回議会定例会は、6月8日から17日までの10日間
 にわたり開催され、国の地域活性化・経済危機対策事業などを
 盛り込んだ21年度の補正予算や専決補正予算、条例の制定案
 などが審議され、原案のとおり可決・承認されました。
 また、議員提出議案が2件提案され、可決されました。

条例制定

平成21年6月の期末手当及び勤
勉手当に関する条例制定の件
地方自治法第179条による専決処
分の件
専決第12号 平成21年6月の
期末手当及び勤勉手当の特例に
関する条例制定の件

条例改正

地方自治法第179条による専決処
分の件
専決第7号 朝日町税条例一部
改正の件
地方自治法第179条による専決処
分の件
専決第8号 朝日町国民健康保
険税条例一部改正の件

その他の案件

あさひヒスイ海岸周辺整備事業
パークゴルフ場建設工事請負契
約締結に関する件

資源循環形成下水道事業 朝日
浄化センター汚泥処理設備（機
械・電気）設置工事請負契約締
結に関する件

朝日町老人福祉センター改修工
事請負契約締結に関する件



老人福祉センター



人事案件

人権擁護委員候補者を推薦する
ため意見を求める件
朝日町横尾1166番地
島端恵津子氏の推薦に同意

議員提出議案

北朝鮮の核廃棄を求める意見書
政府が自ら決めた備蓄ルールに
基づいて、20万トン規模の政府
米買い入れを求める意見書

請願・陳情

採択となったもの
政府が自ら決めた備蓄ルールに
基づいて、20万トン規模の政府
米買い入れを求める請願
継続審査となったもの
農地法の「改正」に反対する請
願
富山県の最低賃金の大幅引き上
げと中小企業対策の拡充を求め
る陳情

会派の解散

去る6月17日、議会定例会の
閉会後に、長崎智子氏から会派
異動届の提出があり、所属して
いた誠友会を離脱されました。
このことにより、誠友会の構
成員は1人のみとなったことか
ら、会派（町議会議員2人以上
を有する団体）ではなくなり、
3つあった朝日町議会の会派は
創政会（6人）と日本共産党（2人）
の2つとなり、無会派は2人と
なりました。

新たな議運委員

長崎智子氏の議会運営委員辞任
に伴い、去る7月3日に朝日町議
会運営委員会が開催され、後任に
廣田諠氏が決定しました。



隆田 諠

核兵器廃絶と平和の願いについて

脇 四計夫（日本共産党代表）

質問 北朝鮮の核実験は許しがたい暴挙であり、北朝鮮に断固抗議すべきだと思いが、町長の考えを伺う。

答弁 町長 広島、長崎に投下された原爆は、大惨禍をもたらし、今もなおその多くの被爆者が肉体的、精神的、社会的な苦悩を強いられている。

世界の恒久平和実現のためには、世界の国々が国境を越え、思想・信条の違いを乗り越えて、核兵器の廃絶に向けた取り組みが必要であると考えている。

北朝鮮の核実験については、衆参両院においてそれぞれ全会一致で抗議決議を採択された。

今後は、北東アジア地域の平和と安全が守られるよう見守りたい。

あさひ総合病院の医師・看護師の確保について

質問 あさひ総合病院の常勤医師は昨年に続き今年度も減った。

このような状態では、町民の健康と医療を守ることができず、今後の見通しについて伺う。

答弁 町長 昭和57年の医学部定員の抑制と平成9年の医学部の定員削減の閣議決定、平成16年度からの新医師臨床研修制度によって、全国的な医師不足を招いている。医師の派遣元である富山大学に要請しているが、大学医局自体が人員不足になっている。このような背景から、あさひ総合病院への医師派遣の中止、引き揚げが相次ぎ、大学に医師派遣を頼らざるを得ない地方の公立病院にとっては、派遣元の大学医局の医師不足が解決しない限り、医師の確保は困難な状況にある。

また、看護師の確保については、看護師養成機関へ出向いての求人活動や富山県看護研修センターによる看護職員研修ガイダンスへの参加など、各方面への募集活動を行っているところであるが、見通しは厳しい状況にある。今後とも、

関係機関への働きかけを積極的に行っていききたい。

グループホームなどの充実について

質問 要介護2以下の介護認定者の特別養護老人ホーム入所は、現状では困難である。介護保険制度は、そもそも家族介護から社会介護への転換を図ったものではないか。

答弁 町長 高齢化の進行や社会構造の変化による家庭介護力の低下に伴い、要介護高齢者の介護保険施設への入所申込が増加する中、当町ではこれまで介護保険施設の整備・拡張に努めてきたが、現在は満床の状況にある。

平成17年の介護保険法の改正により、高齢者が住みなれた地域で安心して暮らすことができるよう地域密着型サービスが創設されるとともに、介護予防重視型システムへの転換により、これまでの施設系サービスから居宅系サービスへの移行が図られることになったところである。

商業施設アスカの経営について

質問 朝日商業開発㈱「アスカ」は、当時の通産省と県の強い働きかけによってつくられた。アスカは、商店街が衰退する中で、町民にとってはなくてはならない商業施設になっている。



ショッピングセンター「アスカ」

しかし、経営状態を改善するためにと、国と県からアスカの一部アゼリアホールを町に買い取るよう強い働きかけがあり、今年度から4年間で総額1億7千万円にて町が買い取るようになった。

一昨年の減資についても、国と県の働きかけによるものである。町だけでなく国と県も負担すべきだと考えるがどうか。

答弁 町長 平成3年に「特定商業集積に係る地域商業振興の基本的な方針」を樹立し、整備に当たつての基本理念である「くらしの広場」としての商業集積の確立や、既存商店街と一体となった地区住民に魅力ある商業施設を整備することとして全国第1号の認定を受け、平成4年にシヨッピングセンター「アスカ」がオープンした。

オープン当初は約20数億円の売り上げを見て、順調に営業が行われてきたが、ホームセンターやコンビニエンスストア、ドラッグストアなどの影響もあり客足が減少、さらに、テナント枠の減少など、経営に苦慮されているのが現状である。

このことから、中小企業基盤整備機構や県から経営健全化のために資本減資とアゼリアホール買い

取りを求められたところである。

資本減資については、株主である事業者、中小企業基盤整備機構、県、町でその対応について協議を行い、平成19年11月に臨時株主総会の承認を得て、資本金の減資を行った。

アゼリアホールについては、借入金の返済期限が平成24年度と迫る中で、中小企業基盤整備機構や県から、朝日商業開発(株)と町の双方で不動産鑑定を取得するよう要請があったところである。それぞれの不動産鑑定の間値である1億7千万円で買い取るよう協議を整えて、本年3月議会にて、アゼリアホール買い取りに係る予算を提案し、承認いただいたところであり、今後、4年間にわたり支払うものである。

アゼリアホールは、町が買い取つた後の管理を検討している。この建物は築18年を経過しており、空調、内装、装飾等について修繕が必要な状況になってきていると認識している。

今後は中小企業基盤整備機構や県などの関係機関と英知を出し合いながら、経営改善に向けた取り組みを進めていかれるということなので、町は助言をしていきたい。

並行在来線について

水島 一友（創政会代表）

質問 並行在来線について、県並行在来線対策協議会でどこまで話し合われているのか、並行在来線に対する町長の考えと合わせて伺う。

答弁 町長 北陸新幹線の開業時にJR西日本から経営分離される県内の並行在来線の経営について検討するために、平成17年11月に富山県並行在来線対策協議会が設置された。県及び県内市町村、北陸経済連合会、県商工会議所連合会などの経済団体がメンバーとなっている。

平成18年度には、各駅の利用状況や人口推移の調査など需要予測を検討し、並行在来線運営計画などの基礎資料を作成した。

翌年度には、北陸地区の民間鉄道会社5社の収

支状況やJR西日本の資産状況を概略検討するなど、安定経営を継続していくための資料を作成している。



J R 泊駅

平成20・21年度において、これらの基礎資料をもとに、運行ダイヤや車両基地、運行管理システムなど具体的な調査を行い、運行に必要な施設や設備、要員数などを調査・検討している。

今後は、新潟県や石川県区間を含めた運営体制の検討や、JR西日本と既存の施設や資産などの移管や運行する車両の管理・検査体制、特急や貨物列車の運行方法など、さまざまな協議を重ねていくことになっている。

並行在来線は日常生活を支える重要な路線であり、地域振興にも寄与することから、利用者の利便性向上や安定した経営が持続できるように検討を重ねる必要があるとともに、経営分離された場合の収支見通しが大変厳しいことになっていることが想定されており、県においても、国において責任を持って事業者を支援してもらえよう働きかけていきたいと、同協議会で方向を示している。

今後、町としては、泊駅周辺整備や利用者の利便向上に向けて諸施策を検討していかなければならないと考えている。

環境（EIT）について

質問 町として新エネルギーの活用など、どのような取り組みを推進していくのか伺う。

答弁 町長 当町では、身近に存在する環境にやさしいエネルギーの導入と普及を目指し、総合的、長期的なビジョンとして、平成15年3月に「朝日町新エネルギービジョン」を策定している。

この中で、積極的に導入するものとして、太陽光発電、太陽熱利用、クリーンエネルギー自動車などを挙げている。また、事前調査を踏まえ導入するものとして、風力発電、小水力発電、バイオマス発電などを挙げている。

このことから、平成15年度より住宅用太陽光発電システム設置補助金の交付を行っており、この間、17軒の家庭に補助金を交付している。平成19年度からは、新たに太陽熱高度利用システムの設置補助や、家庭用電気の使用量が一目でわかる省エネナビの設置購入補助を実施してきている。その他、らくちんの、あさひ総合病院、いちご保育園に太陽光発電システムと風力発電システムを組み合わせ

たハイブリッド発電設備を設置してきている。

また、本年度に小水力発電詳細ビジョンについて調査することとしており、当町に賦存する新エネルギー導入の可能性を検討したいと考えている。今後、これら検討に加え、低燃費・ハイブリッド自動車の導入や公共施設への太陽光発電システムの設置に向けた検討も進めていきたいと考えている。

これら新エネルギーの導入とともに、町民一人一人の心がけて実行可能な、スーパーのレジ袋削減、エアコンの適正温度設定や待機電力のカット、エコドライブ、3Rの推進など、省エネルギー対策を実施することが大きな成果につながるものと思っている。

AEDの設置について

質問 小・中学校や体育館等に設置されているAED（自動体外式除細動器）を、地区避難場所に指定されている小学校跡地施設にも設置が必要であると思うがどうか。

答弁 町長 AEDは、心肺停止状態の傷病者に対し、電気ショックによって心臓を正常なリズム



AED（自動体外式除細動器）

に戻すための医療機器である。当町では、小・中学校やサンリーナ体育室、オートキャンプ場に設置してきた。

小学校跡地施設への設置については、地域の拠点施設として、スポーツや文化活動をはじめ各種行事が開催されるなど、多くの人が集まる場所として広く利用されており、利用者の健康と生命を守る観点から、不測の事態に備え、AEDを設置したいと考えている。

その使用に当たっては、正しい知識と使用方法の習得が必要であり、小学校跡地施設の管理者や利用者等に対し、講習会など正しい使用方法の普及に努めたいと考えている。

広域観光圏と

朝日町の位置づけについて

廣田 誼

質問

「富山湾・黒部峡谷・越中」にいかわ観光圏協議会」の具体的な計画や、その中での当町の位置づけについて伺う。

答弁

大井産業部長 東海北陸

自動車道や北陸新幹線の整備により、中京圏や首都圏からの時間的距離が近くなり、今後さらに県内への観光客の増加が見込まれている。このような中、今年2月に滑川市、魚津市、黒部市、入善町及び朝日町の3市2町と民間企業や団体により「富山湾・黒部峡谷・越中」にいかわ観光圏協議会」が設立された。

観光圏域の特徴としては、北アルプスから深海までの4千メートルの高低差や、万年雪、湧水、深層水などの「水」、海・里・山の豊富な食材などの「食」の特色あるブランドを生かし、どのように観光商品として売り出していかかがこれからの目標とされている。

同協議会の6月に開催された総

会の中で、滞在促進地区である宇奈月温泉と魚津駅前のホテルの宿泊者を対象にして、朝日町のたらの汁を食べてもらう企画や、バスによる産業や観光地をつなぐオプショナルツアーの企画、美術館・博物館・水族館をめぐるミュージアムパスの創設などの事業が計画されており、滞在と周遊を促す事業を展開していく計画となっている。今後は、各事業の具体的な運営について事業部会をつくり、協議していくこととなる。

町内の観光施設の連携強化について

質問

町内施設同士の連携がどのように図られているのか伺う。

答弁

大井産業部長 当町には、

なないろKANなどの交流施設のほか、不動堂遺跡や史跡、文化財も多く、これらをつましく結びつけて観光の魅力を向上させていくこ

とは、大変有意義なことと考えている。

なないろKAN周辺には、歴史公園、百河豚美術館、まいぶんKANなどがあり、周辺ガイドマップを作成して一体的にPRしている。ふるさと美術館での企画展や境関所まつりなどのイベントの情報、さらには舟川桜並木の開花状況など情報を配信し、来客者へのサービス向上に努めている。

さらには「とやま帰農塾」や「ふるさと体験事業」も農業・漁業体験が地域の資源や特色を生かした取り組みとして当町の魅力を高め、既存施設への相乗効果も期待しているところである。

また、今年度で開催している朝日近傍地域バス探訪では、近隣の市町村の魅力に出会えるだけでなく、この機会を通して町の観光にも目を向け、魅力の再発見のきっかけにならないかと考えているところである。

町の歴史や文化を学ぶ公民館講座として、過去に「山城探訪教室」や「自然と歴史のみち探訪」を中央公民館で実施しており、本

年度はまいぶんKANで「境関所とそのものがたり」と題した企画展を実施している。

今後とも、自然、文化、歴史とたくさん魅力がある当町を多くの方々に知っていただけるよう努めていきたいと考えている。



朝日近傍地域バス探訪にて近隣市町村を訪れる町民

農業問題について

稲村 功

質問

ミニマムアクセス米が米価下落の大きな要因と考えるが、当町の考えを伺う。

米の輸入をやめ、大豆や麦などの転作作物の補助率を引き上げると、国産米では対応しにくい加工用途に販売されており、販売しきれない米については、支援用途や飼料用米として充当するよう、在庫として管理される措置が講じられている。このことから、米の生産調整への影響も少なく、国際的な問題でもあるので、今後とも国の動向を見守りたいと考えている。

答弁 大井産業部長 ミニマムアクセス米は、価格などの面から国産米では対応しにくい加工用途に販売されており、販売しきれない米については、支援用途や飼料用米として充当するよう、在庫として管理される措置が講じられている。このことから、米の生産調整への影響も少なく、国際的な問題でもあるので、今後とも国の動向を見守りたいと考えている。

日本の農政推進の指針となる食料・農業・農村基本計画は策定後4年が経過しており、現在、食料・農業・農村をめぐる情勢の変化等を踏まえ、新たな基本計画の検討が行われている。並行して、農政改革関係閣僚会合で農政改革の検討が行われ、米の生産調整の問題

等の議論がなされている。米の生産調整については、生産調整実施者からは制度に不公平感があるなどの問題が指摘されており、当町の農業者も同様の立場であることから、今後の米政策が、これまできちんと生産調整を実施してきた農業者の不利にならないよう、その動向を見守りたいと考えている。

子どもの住みよい環境づくりについて

質問

あさひ野小学校区では、児童が放課後や休日など安心安全に過ごせる児童館の設置を求める声があるが、当町の考えを伺う。

北陸新幹線沿いの道路（農免農道）が一部開通したが、交差点が多く児童の通学路とも交わる。この道路の交通対策について伺う。

答弁 山崎健康課長

厚生労働省所管の放課後児童健全育成事業（学童保育）は、年間200日以上の開所日数の確保、放課後児童指

導員の配置等が要件とされており、あさひ野小学校においては平成19年度より文部科学省所管の放課後子ども教室推進事業に取り組んでいる。月2回程度、希望する児童が放課後の2時間、学校の1室に集まり、2年生までの低学年

コースを水曜に、3～6年生の高学年コースを月曜に分けて実施しており、宿題や自習学習の後に文化教養教室やスポーツ教室等を行っている。当町としては、引き続き、放課後子ども教室推進事業を実施していきたいと考えている。

再質問

月2回の開催で十分に足りているのか。

再答弁 大村教育委員会事務局長

開始して3年目に入ったが、参加者は若干減少傾向にある。

答弁 大井産業部長

農免農道は、県が工事を実施し完成後は町に管理が移管されており、随時地元自治振興会に説明を行い共用開始してきている。農免農道の交通規制、交通安全施設は、県が公安委員会等と協議し設置している。あさひ野小学校の通学路となっている井ノ口から高橋への町道大家庄高橋線と農免農道の交差点は、県と公安委員会が協議し、農免農道を優先道路として町道側に規制標識「止まれ」と停止白線を設置

している。今後ともパトロールなどを強化し、危険箇所と考えられる場所があれば、地元自治振興会や交通安全協会の意見を伺い、入善警察署や県公安委員会に信号機や交通安全施設などの設置について働きかけていきたい。



再質問 教育委員会にも交通安全対策を伺う。

再答弁 大村教育委員会事務局長

4月上旬に新1年生に対し警察立会いによる道路横断等の指導、4月下旬には全学年に対し道路での交通安全運動を実施している。また、保護者へ交通安全啓発チラシの配布や、先生と保護者が定期的に危険箇所立つなどの交通安全に努めてきている。

新川地域介護保険組合について

大森 憲平

質問 平成21年度からスタートした介護保険の第4期事業計画と第3期事業計画との違いはどこか。

高齢化が進む過程にあつて、これから介護事業がどのように変わっていくのか。

新川介護保険組合での介護老人

福祉施設の入所状況と入所希望状況を伺う。また、当町にある施設の入所状況と入所希望状況はどうか。また、新しい介護老人福祉施設をつくる計画はあるか。

答弁 竹内民生部長

第3期事業計画では、軽度の要介護者に対する介護予防サービスや地域支援事業の創設、地域密着型サービスや地域包括支援センターの創設等が盛り込まれたが、第4期事業計画については、第3期事業計画を基本的に継承して施策の推進体制を確立するものとなっている。

今後、認知症高齢者や

ひとり暮らし高齢者が増加していく中で、軽度者への介護予防サービスの充実や地域密着型サービスを含む居宅サービスの計画的提供、サービス事業者の参入促進により、施設介護から居宅介護へとシフトしていくものと考えている。

本年4月1日現在の新川地域介護保険組合の被保険者の入所状況は、特別養護老人ホームが488人で、うち当町の人が131人。介護老人保健施設が270人で、うち当町の人が73人。介護療養型医療施設が185人で、うち当町の人が25人。計943人で、当町の人が229人である。待機者については、県が実施した特別養護老人ホームに係る調査によると、本年4月1日現在で448人となっている。また、当町での施設入所者数は、有磯苑が130人、つるさなかめさんが60人で、施設が受け付けている入所希望待機者数は有磯苑で103人、つるさなかめさんで127人となっている。なお、新川地域内で新しい施設をつくる計画については、第4期事業計画においては予定されていない。

再質問 有磯苑等への入所決定はどのようにしているのか。

再答弁 要介護度や生活状況、介護者の状況を点数制で評価し、入所決定している。

市町村合併について

質問 市町村合併について、どのように考えているのか。また、合併しなかったことに対し、国・県から勧告や指導はあったか。

答弁 澤田総務部長 より効率的で効果的な行財政運営と新しいまちづくりを目指し、平成15年5月19日に議会の議決を得て、黒部市・宇奈月町・入善町・朝日町合併協議会を設立し、合併に向けて協議されたが、新市の名称と事務所の位置について調整がつかず、平成16年6月21日をもって合併協議会が解散となっている。これらの経緯を踏まえ、合併については相手のある話でもあり、当面は単独町政の道を歩まざるを得ないと考えている。

また、市町村の合併の特例等に関する法律は、平成22年3月31日までを期限としているが、現在、知事から何ら勧告は受けていない。

再質問 合併協議会が解散となつて以降、合併できなかった町村の首長間で合併の話は出ていないか。

再答弁 町長 そのような話は出ていない。

本文に掲載した
記事以外の質問

脇四針夫議員

携帯電話不感地域の解消について

(1)大平地区での携帯電話使用
可能対策について

水島一友議員

海岸保全について

(1)海岸対策の進捗状況について

(2)不公平のない海岸対策について



ヒスイ海岸の緩傾斜護岸

廣田 誼議員

広域観光圏と朝日町の位置づけ
について

(3)イベントの実施について
パークゴルフによる観光振興に
ついて
(1)パークゴルフ場の規模と観
光との関連などについて



稲村 功議員

農業問題について

(1)農地法の改正について

国保法第44条の適用について

(1)国保法第44条の適用につい
て

大森憲平議員

中山間地域等直接支払制度に
ついて

(1)各地区の事業状況について

(2)この制度の継続について

議長交際費
を公開します

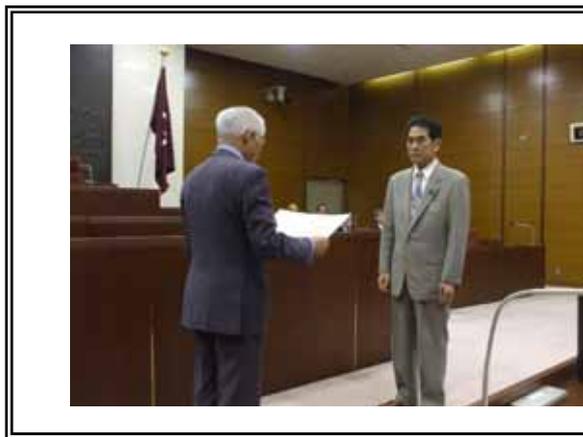
平成21年

4月1日～6月30日

項目	件数	支出金額(円)
祝儀・寸志	9	124,680
香典・生花・見舞		
土産・贈答		
負担金・会費	2	50,000
懇談会		
饞別・激励・協賛金	3	20,500
その他		
合計	14	195,180

議会だよりでは、質問した内容を
要約して掲載しております。
詳細につきましては、図書館にあ
る会議録、または朝日町のホームペ
ージをご覧ください。
<http://www.town.asahi.toyama.jp/>

永年勤続議員表彰
6月8日開会された議会定
例会で梅澤益美氏が町議会議
員として、15年の永きにわた
り地方自治の振興と町発展に
尽力された功績により、議決
をもって議会から表彰されま
した。



議会を傍聴してみませんか
定例会は3月、6月、9月、
12月の年4回開催されます。
日程については、議会事務
局へ問い合わせください。

常任委員長報告

総務産業委員会

当委員会は、6月12日の午前10時から開催し、議会から付託されました11議案を慎重審査いたしました結果、付託されております全案件は、それぞれ原案のとおり可決・承認すべきものと決しました。

なお、議案審査の過程において、次の要望、意見がありました。

1 農免農道と町道等の交差点について、交通安全対策を関係機関とともに図られたい。

2 町の貴重な伝統工芸品であり越中和紙の一つである「蛭谷紙」について、その継承と発展のため、今後とも後継者等の育成に努められたい。



北陸新幹線沿いに整備された農免農道を視察する総務産業委員

次に、請願及び陳情の審査結果を申し上げます。
今定例会において、議会から付託されました新規の請願「農地法の改正に反対する請願」については、継続審査にすべきものと決しました。

また、同じく今定例会において、議会から付託されました新規の請願「政府が自ら決めた備蓄ルールに基づいて、20万トン規模の政府米買い入れを求める請願」については、願意受当と認め、採択すべきものと決しました。

さらに、今定例会において、議会から付託されました新規の陳情「富山県の最低賃金の大幅引き上げと中小企業対策の拡充を求める陳情」については、継続審査にすべきものと決しました。

民生教育委員会

当委員会は、6月12日、15日の両日午前10時から開催し、議会から付託されました7議案を慎重審査いたしました結果、付託されております全案件は、それぞれ原案のとおり可決・承認すべきものと決しました。

なお、議案審査の過程において、次の要望、意見がありました。

1 あさひ総合病院について、引き続き医師・看護師の確保に努められたい。



あさひ総合病院

議会日誌

四月

23日 議会だより編集委員会
27日 東部議会議長協議会総会

27日、28日 東部議会議長協議会
行政視察（福井県大野市）
（魚津市）



東部議会議長会行政視察

五月

12日 県町村議会議長会臨時総会
（富山市）



県町村議会議長会長として挨拶する中陣議長

21年5月12日に県町村議会議長会臨時総会が行われ、中陣議長が町村議会議長会の会長に就任されました。
任期は2年です。

13日 議会運営委員会

31日、1日 第26回東京朝日会
総会（東京）



六月

- 2日 県町村議長・事務局長会議
- 3日 議会運営委員会
- 8日 第2回議会定例会
（提案理由説明・質疑）
- 9日 議会運営委員会
- 11日 本会議（代表・一般質問）
全員協議会
- 12日 総務産業常任委員会
民生教育常任委員会
民生教育常任委員会
- 15日 議会運営委員会
全員協議会
- 16日 本会議（委員長報告・討論
・採決）
- 17日

編集 後記



じめじめとした梅雨の時期、景気や政情の不安定さも加わり一層気持ちが悪く感じられる今日この頃。政府が打ち出した経済危機対策が、当町の6月議会ですら追加提案され可決しました。梅雨空同様、景気の一刻も早い回復を期待してやみません。

還暦を迎えた今年、野菜作りに挑戦しました。5月の連休に7種類の苗と野菜作りの本を購入し、見様見真似で雑草と闘いながら収穫を楽しみにする毎日です。今はキュウリが最盛期で家族2人では食べきれないほど。ジャガイモ、ピーマン、セロリなども収穫し、形より新鮮さがとりの我が家の野菜。妻に出来をけなされ、ほめられ、おだてられ、品定めをされての「六十歳の挑戦」の日々です。

議会だより編集委員

- 中陣将夫 吉江守照
- 大森憲平 水野仁士
- 水島一友 脇四計夫